

Kansai Economic Insight Monthly

2019/4/23

Vol.72 March/April

▼ APIR “Kansai Economic Insight Monthly”は、関西経済とそれに関連する中国経済の動向に関する分析レポートです。

▼レポート公開時期は毎月第4週を予定しています。

▼執筆者は、稲田義久(甲南大学教授、APIR数量分析センター長)、木下祐輔(APIR調査役)、馬騰・KARAVASILEV Yani(各APIR研究員)及び豊原法彦(関西学院大学教授)、Cao Thi Khanh Nguyet(関西学院大学講師)、野村亮輔です。

▼本レポートにおける「関西」は、原則として滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の2府4県です。統計出所を発表している省庁などが「近畿」としている場合も「関西」に統一しています。

目次

要旨	1
関西経済のトレンドとCI, CLI	2
景気の現況	3
関空モニター	10
中国景気モニター	11
主要月次統計	15
Release Calendar	16

要旨

- 景気は足下悪化傾向、先行きは改善の兆し※ -

- ✓ 2月の生産は4カ月ぶりの前月比プラスだが、1-2月の生産は10-12月平均比-3.0%下落し、生産は依然低調である。近経局は生産の基調判断を「足踏みをしている」と前月から据え置いた。
- ✓ 3月の貿易収支は2カ月連続の黒字だが、前年比縮小した。輸出・輸入はともに減少しており、内容がよくない。世界経済減速の影響もあり、特に中国向けの科学光学機器、半導体等電子部品等が減少した。
- ✓ 3月の景気ウォッチャー現状判断DIは、2カ月ぶりに前月比悪化し、4カ月連続で50を下回った。月後半の気温の低下により春物商材の動きが芳しくなかったことがマイナスに寄与した。
- ✓ 1月の関西コア実質現金給与総額は2カ月ぶりの前年比改善だが、伸びは小幅にとどまった。
- ✓ 2月の大型小売店販売額は4カ月連続の前年比マイナス。百貨店はインバウンド需要の伸びがプラスに寄与したが、スーパーは野菜の相場安と冬物衣料の不調によりマイナスに寄与した。
- ✓ 2月の新設住宅着工戸数は4カ月ぶりの前年比減少。持家は増加したものの、貸家の減少の影響が大きい。
- ✓ 2月の有効求人倍率は5カ月ぶり、新規求人倍率は2カ月連続で前月比小幅改善した。完全失業率も3カ月連続で改善しており、引き続き雇用情勢は堅調である。
- ✓ 3月の公共工事請負金額は3カ月ぶりの前年比減少だが、1-3月期は5四半期ぶりに前年比増加した。
- ✓ 3月の関空の外国人入国者数は6カ月連続で前年比増加したが、依然一桁台の伸びに留まっている。国籍別にみると、1月の台湾は8カ月ぶりに前年比増加したものの、韓国・香港からの入国者数は8カ月連続で同減少している。
- ✓ 中国1-3月期実質GDP成長率は好調な第2次産業に支えられ、前年同期比6.4%となった。また、3月の製造工業PMIは2カ月ぶりに改善し、4カ月ぶりに50を上回った。

※景気の基調判断はAPIR(豊原法彦関西学院大学教授)開発の関西景気動向指数(CI, CLI)に基づいている。

【関西経済のトレンド】

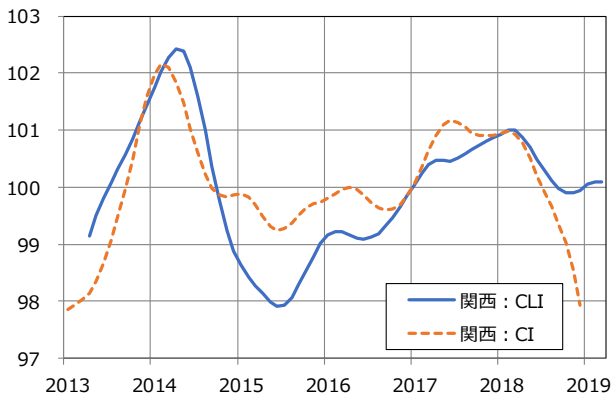
	2018年											2019年		
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
生産	↗	↗	↘	↗	↘	↗	↘	↗	↘	↘	↘	↗		
貿易	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↘	↗	↘	↗	↗	
センチメント	↘	↘	↘	↗	↘	↗	↘	↗	↘	↘	↘	↗	↘	
消費	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘		
住宅	↘	↗	↗	↘	↘	↘	↗	↘	↘	↗	↗	↘		
雇用	↗	↘	↘	↗	↗	↗	↗	↘	↘	↘	↘	↗		
公共工事	↘	↘	↘	↗	↗	↘	↘	↘	↗	↘	↗	↗	↘	
中国	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	

(*トレンドの判断基準)

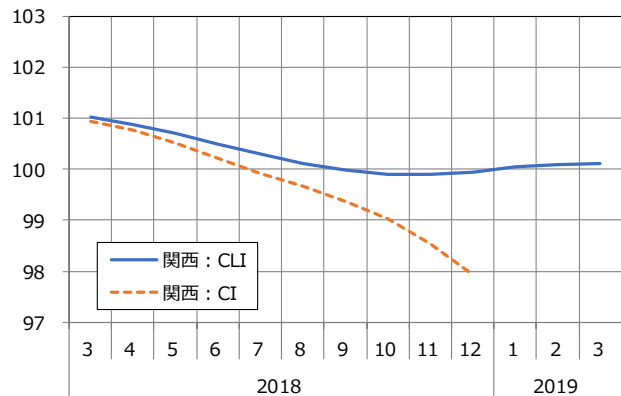
- ・ **生産**：近畿経済産業局『近畿地域域工業生産動向』生産指数(季節調整値)が前月比+0.5%以上であれば上向き、同-0.5%未満であれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **貿易**：大阪税関『貿易統計』の近畿圏貿易収支(入出超額)前年同月から500億円以上の改善は上向き、同500億円以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **センチメント**：内閣府『景気ウォッチャー調査』の近畿現状判断(方向性)DIが前月比で1ポイント以上の改善は上向き、1ポイント以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **消費**：近畿経済産業局『大型小売店販売状況』(全店ベース)が前年同月比で1%以上増加していれば上向き、同1%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **住宅**：国土交通省『住宅着工統計』新設住宅着工戸数が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **雇用**：厚生労働省『一般職業紹介状況』有効求人倍率(季節調整値)が前月比で0.01ポイント以上の改善は上向き、変化がなければ横ばい、0.01ポイント以上の悪化は下向きとする。
- ・ **公共工事**：西日本建設業保証株式会社『公共工事前払金保証統計』公共工事請負金額が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。

【関西の景気動向指数(CI一致指数・試作 CLI)の推移】

CI一致指数・試作 CLI の推移(2013年1月~2019年3月)



直近1年間のCI・CLIの推移(2018年3月~2019年3月)



【鉱工業生産動向】

(1) 関西の生産動向

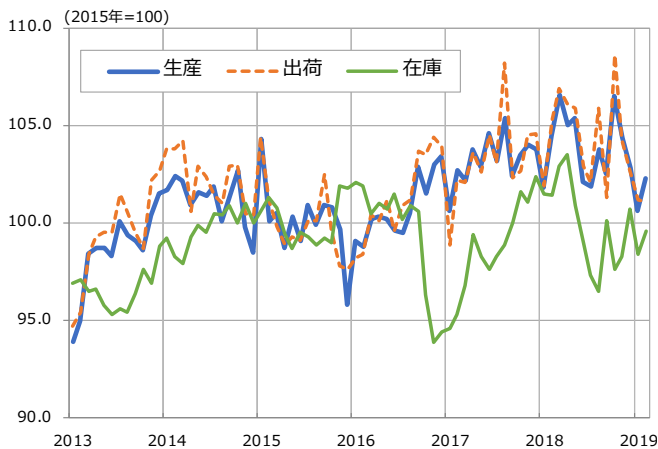
関西 2019年2月の鉱工業生産動向(速報値:季節調整済、2015年=100)を見ると、生産は102.3で前月比+1.7%と4カ月ぶりの上昇、出荷は101.1で同-0.1%と4カ月連続で低下した。在庫は99.6で、同+1.2%と2カ月ぶりに上昇した。

結果、1-2月の生産は10-12月平均比-3.0%下落し(10-12月期は前期比+1.8%)、生産は依然低調である。これを受け近畿経済産業局は同月の基調判断を、「生産は足踏みをしている」と前月から据え置いた。

2月の生産指数を業種別にみると、生産用機械工業(前月比+11.9%、2カ月ぶり)、電気・情報通信機械工業(同+6.3%、2カ月ぶり)、金属製品工業(同+4.0%、3カ月ぶり)、化学工業(除、医薬品)(同+3.2%、3カ月ぶり)等が増産となった。一方、汎用・業務用機械(同-6.2%、2カ月ぶり)、輸送機械工業(同-4.6%、2カ月連続)、窯業・土石製品工業(同-3.5%、2カ連続)等が減産となった。

なお、生産と強い関係がある実質輸出(季節調整済、2015年=100)を見ると、2月(確報値)は109.8で、前月比+2.3%と3カ月ぶりのプラス。また、1-2月平均の10-12月平均比は-3.0%減少した(10-12月期は前期比+9.1%)。

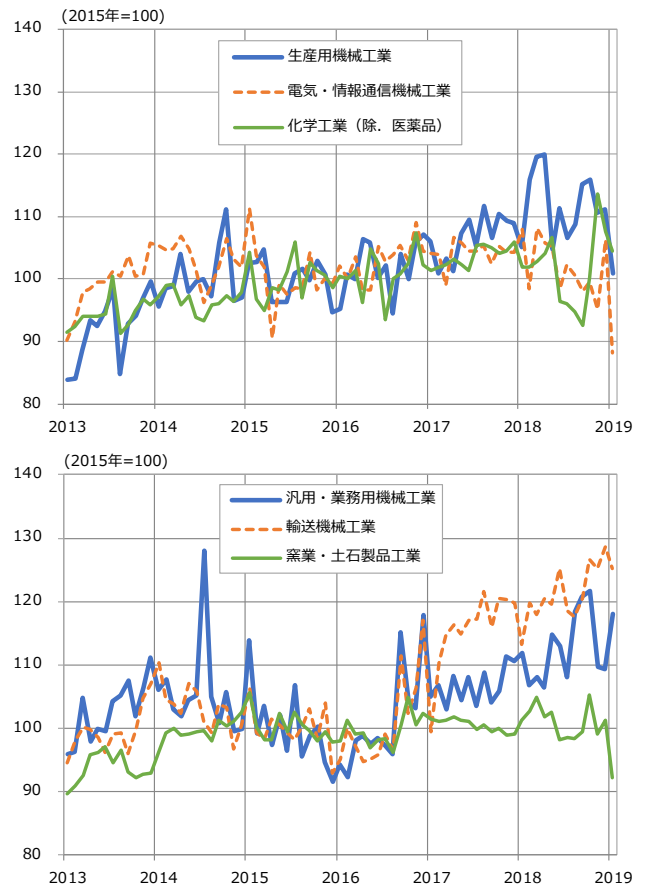
関西の鉱工業生産動向の推移(2013年1月~2019年2月)



(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

関西の業種別生産指数の推移(2013年1月~2019年2月)



(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

(2) 全国の生産動向

全国 2019年2月の鉱工業指数(確報値:季節調整済、2015年=100)を見ると生産は102.8で前月比+0.7%、出荷は102.2で同+1.6%、在庫は102.4で同+0.4%とそれぞれ2カ月ぶりに上昇した。

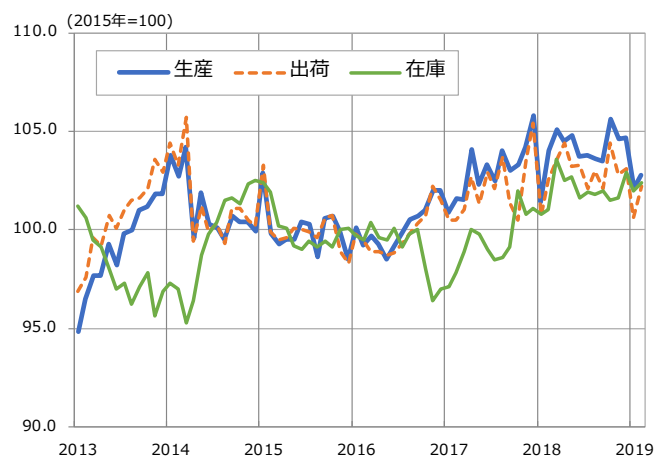
2月の生産指数を業種別にみると、自動車(前月比+3.3%)、生産用機械(同+5.5%)、電気・情報通信(同+4.6%)等が増産となった。一方、食料品・たばこ(同-3.7%)、化学工業(除、無機・有機化学工業)(同-4.6%)、電子部品・デバイス工業(同-4.9%)等が減産となった。

2月の生産は10-12月平均比-2.4%下落した(10-12月期は前期比+1.3%)。

なお、製造工業生産予測調査(速報値ベース)によると、3月は前月比+1.3%、4月は同+1.1%と増産が予測されている。

る。予測が実現すれば、1-3月期は前期比-1.9%と2四半期ぶりの減産が見込まれる。

全国の鉱工業指数の推移(2013年1月~2019年2月)



(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

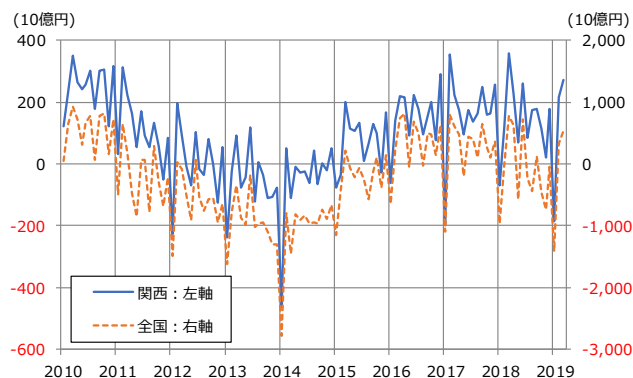
【貿易動向】

(1) 純輸出

貿易概況(速報値)によれば、関西3月の貿易収支は+2,735億円と2カ月連続の黒字となった。原油価格下落により輸入額が減少(-1.4%)したが、輸出も減少(-6.3%)しており、黒字幅は前年同月(+3,567億円)と比べて-23.3%縮小した。中国を始めとする世界経済の減速により輸出入ともに減少しているため、先行き注意が必要である。

結果、2018年度の貿易収支は1兆7,127億円と4年連続の黒字だが、黒字幅は前年度比-12.1%縮小した。

関西・全国の貿易収支の推移(2010年1月~2019年3月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

また、全国3月の貿易収支(速報値)は、5,285億円と2カ月連続の黒字。貿易収支は前年同月比-32.6%縮小した。

結果、2018年度全国の貿易収支は-1兆5,854億円と3年ぶりの赤字となった。

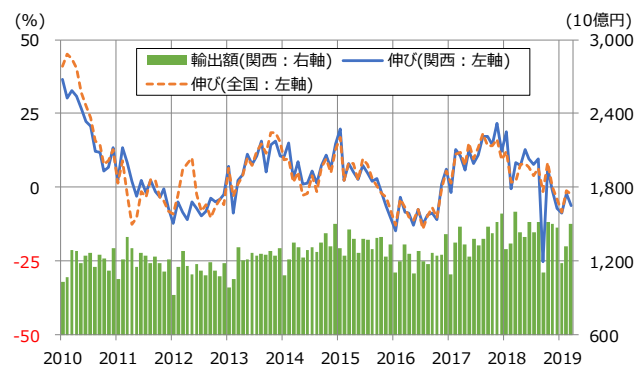
(2) 輸出

関西3月の輸出額(速報値)は1兆5,001億円で、前年同月比-6.3%と5カ月連続の減少。財別にみれば、科学光学機器、半導体等電子部品等が減少した。スマートフォンやタブレット等に使われる主に中国向けの部品が減少した。

なお、日銀の実質輸出(季節調整値、2015年平均=100)によると、3月(速報値)は109.3となり、前月比-0.4%と2カ月ぶりに減少した。このため、1-3月期は前期比-2.8%低下した。2四半期ぶりのマイナス。

全国3月の輸出額(速報値)は7兆2,013億円で、前年同月比-2.4%と4カ月連続の減少。財別にみれば、鉄鋼、科学光学機器、自動車の部分品等が減少した。

関西・全国の輸出の推移(2010年1月~2019年3月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

(3) 輸入

関西3月の輸入額(速報値)は1兆2,266億円で、前年同月比-1.4%と、2カ月連続のマイナスとなった。財別にみれば、原油及び粗油、天然ガス及び製造ガス等が減少した。

なお、日銀の実質輸入(季節調整値、2015年平均=100)によると、3月(速報値)は104.4となり、前月比小幅の-0.1%と4カ月連続の減少。結果、1-3月期は前期比-2.4%低下した。2四半期ぶりのマイナス。

全国3月の輸入額(速報値)は6兆6,728億円で、前年同月比+1.1%と3カ月ぶりの増加。財別にみれば、航空機類、衣類・同附属品、液化天然ガス等が増加した。

関西・全国の輸入の推移(2010年1月~2019年3月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

(4) 関西の地域別貿易

関西3月の貿易収支を地域別に見ると、対アジア(含中国)の貿易収支は+2,703億円で2カ月連続の黒字となったが、黒字幅は前年同月比-35.1%縮小した。輸出(9,699億円)は5カ月連続のマイナス(同-10.1%)。財別にみれば、科学光学機器、半導体等電子部品等が減少した。輸入(6,996億円)は2カ月ぶりのプラス(同+5.7%)。財別にみると、衣類及び同附属品、天然ガス及び製造ガス等が増加した。

うち、対中貿易収支は-164億円で9カ月連続の赤字となり、前年同月の黒字(+655億円)から赤字に転じた。うち輸出(3,514億円)は7カ月連続のマイナス(前年同月比-15.4%)。財別にみると、科学光学機器、半導体等電子部品等が減少した。輸入(3,678億円)は2カ月ぶりのプラス(同+5.0%)。財別にみると、衣類及び同附属品、金属製品等が増加した。

対米貿易収支は+838億円の黒字となったが、黒字幅は前年同月比-3.6%小幅縮小した。輸出(2,079億円)は2カ月連続の小幅プラス(同+1.4%)。財別にみれば、建設用・鉱山用機械、コンデンサー等が増加した。輸入(1,241億円)は2カ月ぶりのプラス(同+5.0%)。財別にみれば原油及び粗油が著しく、また医薬品も増加した。

対EU貿易収支は+275億円で2カ月連続の黒字となり、黒字幅は前年同月比+122.1%大幅拡大した。輸出(1,809億円)は4カ月ぶりのプラス(同+2.8%)。財別にみれば、事務用機器、無機化合物等が増加した。輸入(1,534億円)は3カ月連続のマイナス(同-6.2%)。財別にみれば、医薬品、たばこ等が減少した。なお、増物品目としては、アルコール飲料、有機化合物等があるが、2月に発効した日・EU経済連携協定(EPA)の影響が出ている。

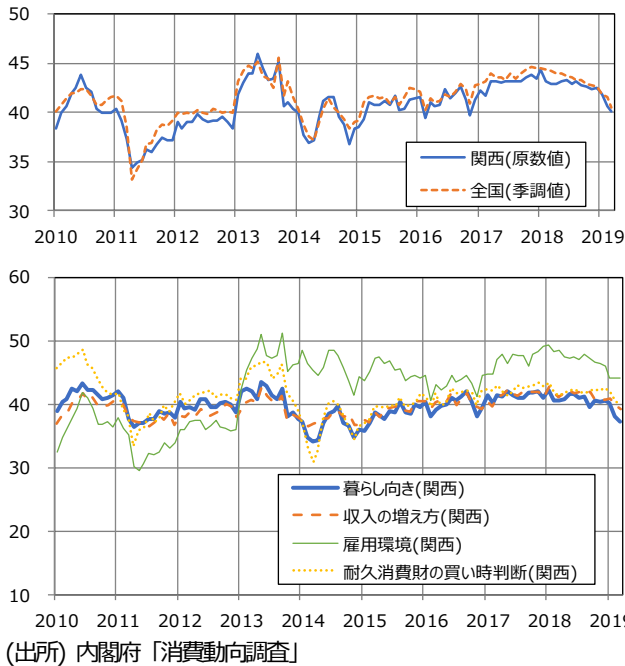
【消費者センチメント】

(1) 消費者態度指数の動向

関西3月の消費者態度指数(季節調整値:APIR推計)は39.9と前月比-1.3ポイント低下し、3カ月連続で悪化。同指数を構成する4項目全てが前月から悪化した。構成項目の内訳を見ると、暮らし向き指数(37.4)は同-1.7ポイント低下し、3カ月連続の悪化。耐久消費財の買い時判断指数(39.5)は同-1.6ポイント低下し、4カ月連続の悪化。収入の増え方指数(39.3)は同-1.2ポイント低下し、3カ月連続の悪化。雇用環境指数(43.3)は同-1.0ポイント低下し、2カ月ぶりの悪化であった。

全国(季節調整値)は40.5と前月比-1.0ポイント低下し、6カ月連続の悪化。2016年2月(40.2)以来、3年1カ月ぶりの低水準であった。身近な食料品の値上げや世界経済への先行き不安が消費者心理を下押しした。同指数を構成する4項目全てが前月から悪化した。構成項目の内訳を見ると、暮らし向き指数(37.7)は同-1.5ポイント低下し、10カ月連続の悪化。4月以降の食料品値上げの予想が影響を及ぼした。雇用環境指数(43.7)は同-1.1ポイント低下し、2カ月ぶりの悪化。耐久消費財の買い時判断指数(39.9)は-1.0ポイント低下し、3カ月連続の悪化。収入の増え方指数(40.6)は同-0.6ポイント低下し、4カ月連続の悪化。内閣府は基調判断を「弱まっている」と据え置いた。

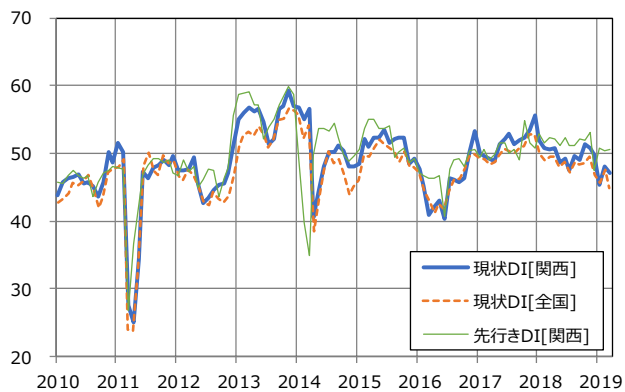
消費者態度指数の推移(2010年1月~2019年3月)



(2) 景気ウォッチャー指数の動向

関西 3 月の景気ウォッチャー現状判断 DI(季節調整値)は 47.0 と前月比-1.0 ポイント低下し、2 カ月ぶりの悪化。また、4 カ月連続で 50 を下回った。家電や住宅で増税前の駆け込み需要が出始めていること、インバウンド需要も中国の電子商取引法(EC 法)の影響が緩和したことから、足下は堅調である。しかし、月後半にかけて気温が低下し春物商材の動きが芳しくなかったことなどから、現状判断 DI は悪化したようである。一方、全国の同指数は 44.8 と同-2.7 ポイント低下し、2 カ月ぶりの悪化であった。

景気ウォッチャー調査の推移(2010年1月~2019年3月)



先行き判断 DI(季節調整値)は、関西で 50.6 と前月比+0.2 ポイント小幅上昇し、2 カ月ぶりの改善。消費増税前の駆け込み需要の本格化、改元の祝賀ムードによる消費増、ゴールデンウィークの 10 連休に伴うレジャー需要の拡大等への期待感の高まりから、先行き改善が見込まれている。一方、全国は同-0.3 ポイント低下し 48.6 と 2 カ月連続の悪化であった。

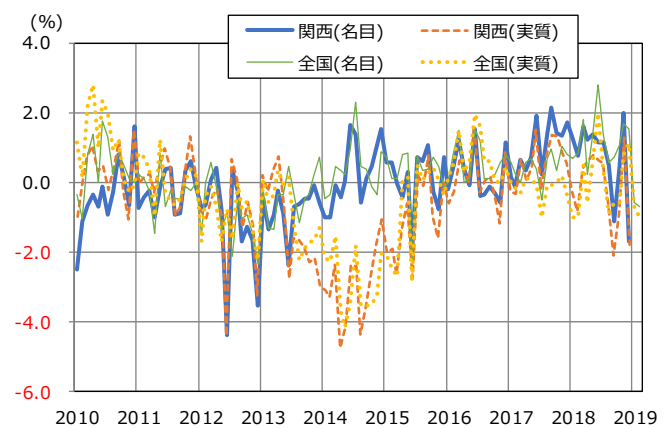
【所得・個人消費】

(1) 現金給与総額

1 月の現金給与総額を公表府県について見ると、兵庫県は前年同月比+4.6%(18 カ月連続)、大阪府は同+0.4%(2 カ月ぶり)増加した。一方、奈良県は同-1.9%(7 カ月連続)、京都府は同-0.7%(6 カ月連続)、それぞれ減少した。

京都・大阪・兵庫の加重平均をとった 1 月の「関西コア」賃金指数(APIR 推計)は前年同月比+1.3%上昇し、2 カ月ぶりの改善。また、物価上昇分(持家の帰属家賃を除く総合)を除いた実質現金給与総額(実質賃金)は同+0.4%上昇し、2 カ月ぶりの改善だが、伸びは小幅にとどまった。

現金給与総額の推移(2010年1月~2019年2月)



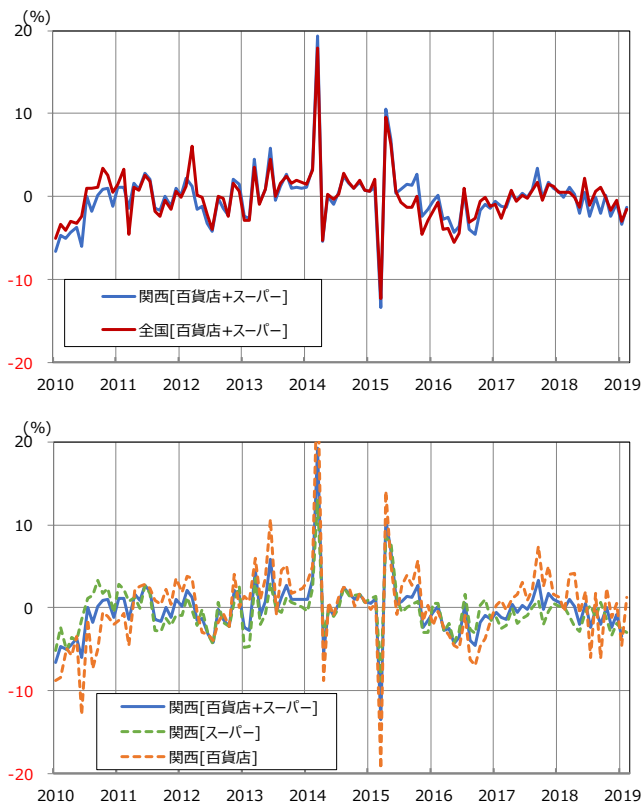
全国 2 月の現金給与総額(確報値)は、前年同月比-0.7%と速報値(同-0.8%)から幾分上方修正されたものの、2 カ月連続の減少。内訳を見ると、所定内給与は同-0.1%(速報値：同-

0.1%)と小幅だが2カ月連続の減少。所定外給与は同-0.2%(速報値:同-0.5%)と3カ月連続の減少。特別給与は同-31.4%(速報値:同-34.2%)と2カ月連続の減少。再集計が行われた2012年以降で最大の下げ幅であった。また、実質現金給与総額は同-1.0%と2カ月連続で減少した。

(2) 大型小売店販売額

関西2019年2月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース)は2,825億円となり、前年同月比-1.3%と4カ月連続のマイナス。うち、百貨店は同+1.2%と、2カ月ぶりのプラス。インバウンド客数と客単価の伸びがプラスに影響した。関西の百貨店免税売上高(日銀大阪支店)は、2月に同+25.6%と2カ月ぶりの大幅増加。単価も8カ月ぶりに上昇した(同+10.5%)。なお、3月は同+12.2%と2カ月連続の2桁増となり、また過去最高額を更新した。

大型小売店販売額の推移(2010年1月~2019年2月)



(注) 福井県を含む。(出所) 経済産業省「商業動態統計」

また、スーパーの販売額は前年同月比-2.9%と、5カ月連

続のマイナス。野菜の相場安と冬物衣料の不調がマイナスに影響した。

全国2月の大型小売店販売額(全店ベース)は1兆4,345億円、前年同月比-1.5%と5カ月連続のマイナス。うち、百貨店は同-2.2%と8カ月連続のマイナス。スーパーは同-1.2%と2カ月連続のマイナス。なお、小売業販売額指数(季節調整済、後方3カ月移動平均)は前月比-0.3%と2カ月連続のマイナス。経済産業省は基調判断を「一進一退の小売業販売」と前月から据え置いた。

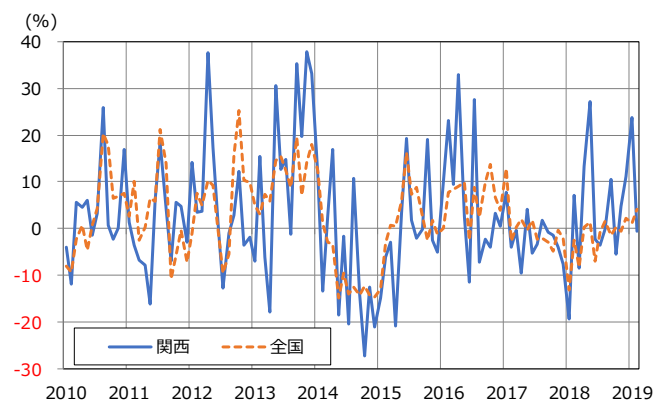
【住宅投資】

(1) 新設住宅着工の動向

関西2月の新設住宅着工戸数は11,310戸と前年同月比-0.7%と4カ月ぶりの減少。

利用関係別に見ると、持家は増加したものの、貸家の減少の影響が大きい。持家は2,962戸で前年同月比+11.0%と7カ月連続の増加。貸家は4,431戸で同-8.4%と4カ月ぶりの減少。分譲は3,822戸で同-0.4%と8カ月ぶりの小幅減少。うち、マンションは2,021戸となり、前年同月比-6.2%(6カ月ぶり)減少した。

新設住宅着工戸数の推移(2010年1月~2019年2月)

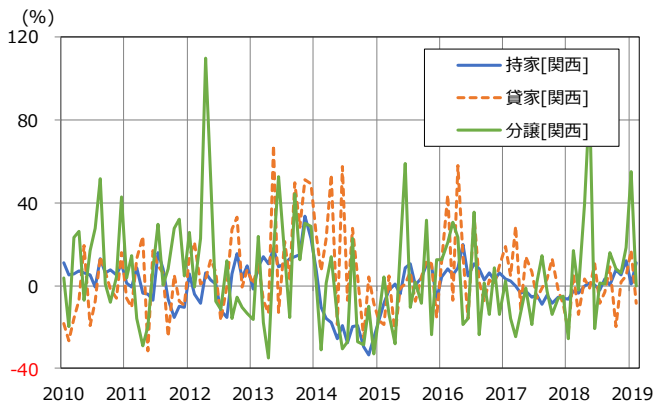


(出所) 国土交通省「建築着工統計」

全国2月の新設住宅着工戸数は71,966戸となり、前年同月比+4.2%と3カ月連続の増加。利用関係別に見ると、持家は21,992戸で同+9.9%と5カ月連続の増加。分譲は21,190戸で同+11.4%と7カ月連続の増加。一方、貸家は

27,921戸で同-5.1%と6カ月連続の減少となった。金融機関はアパート建設向け融資を厳しくしているため、貸家の建設は抑制されている。

新設住宅着工戸数の推移(2010年1月~2019年2月)



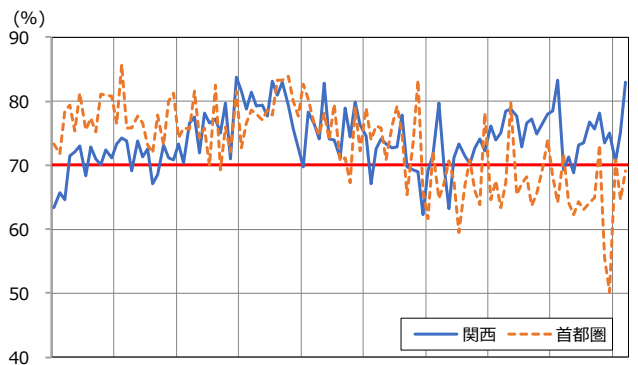
(出所) 国土交通省「建築着工統計」

(2) マンション市場動向

関西3月のマンション契約率(売却戸数/発売戸数)は83.0%(季節調整値: APIR 推計)となり、前月から+7.7%ポイント上昇し、2カ月連続の改善であった。好不調の目安となる70%を9カ月連続で上回り、2018年2月(83.3%)以降で最高水準を記録した。関西の約6割を占める大阪府のマンション供給が大幅低下したため、全体の契約率が上昇した。

結果、1-3月期の関西のマンション契約率は76.2%で、前期比+0.6%ポイント上昇した。3四半期連続で改善し、11四半期連続で70%を上回った。首都圏と比較すれば、関西の販売価格は安価な状況が続いている。

関西・首都圏のマンション契約率の推移(2010年1月~2019年3月)



(出所) 株式会社不動産研究所「マンション市場動向」

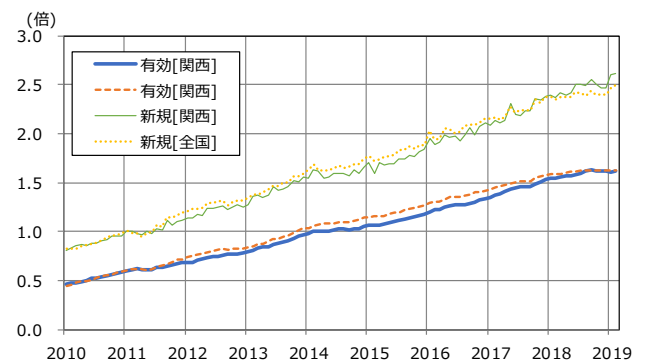
同月の首都圏のマンション契約率は69.2%(季節調整値: APIR 推計)と前月比+4.5%ポイントと前月から上昇したが、2カ月連続で70%を下回った。結果、1-3月期の首都圏のマンション契約率は68.2%で、前期比+8.6%ポイント上昇。2四半期ぶりの改善だが、7四半期連続で70%を下回った。

【雇用動向】

(1) 求人倍率の動向

関西2月の有効求人倍率(季節調整値、受理地別)は、1.62倍で前月比+0.01ポイント小幅上昇し、5カ月ぶりの改善。内訳をみると、有効求人数が同-0.1%、有効求職者数は同-0.9%といずれも2カ月連続の減少。結果、有効求人倍率は小幅改善し、労働需給のひっ迫が続いている。府県別に見ると、京都府が1.58倍と同+0.02ポイント(6カ月ぶり)、奈良県が1.51倍で同+0.02ポイント(2カ月ぶり)、大阪府が1.79倍で同+0.01ポイント(5カ月ぶり)、和歌山県が1.38倍と同+0.01ポイント(3カ月ぶり)、それぞれ上昇した。一方、兵庫県が1.45倍で同横ばい、滋賀県が1.38倍で同-0.01ポイント(2カ月ぶり)低下した。

求人倍率(受理地別)の推移(2010年1月~2019年2月)



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」(下の表も同様)

関西2府4県有効求人倍率(2019年1月~2月)

	全国	関西	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
1月	1.63	1.61	1.39	1.56	1.78	1.45	1.49	1.37
2月	1.63	1.62	1.38	1.58	1.79	1.45	1.51	1.38
前月差	0.00	0.01	▲0.01	0.02	0.01	0.00	0.02	0.01

また、関西2月の新規求人倍率は2.61倍で前月比+0.01ポイント小幅上昇し、2カ月連続の改善。新規求人数は同

+0.3%と小幅であるが2カ月連続で増加しており、企業の雇用意欲は強い。

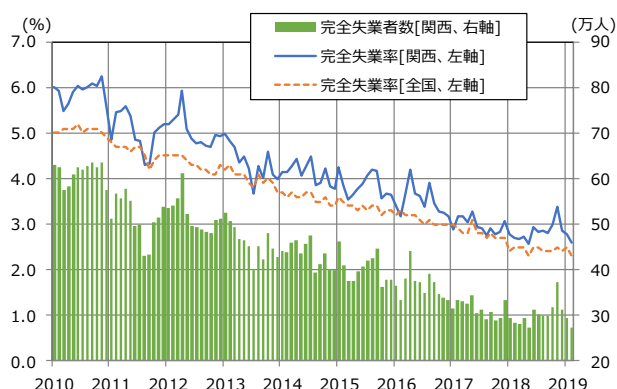
全国2月の有効求人倍率(季節調整値)は1.63倍と3カ月連続の前月比横ばい。新規求人倍率は2.50倍で同+0.02ポイント小幅上昇し、2カ月連続の改善であった。

(2) 完全失業率の推移

関西2月の完全失業率(季節調整値:APIR推計)は2.6%と前月比-0.2%ポイント低下し、3カ月連続の改善。完全失業者数(季節調整値:APIR推計)は27.4万人で前月比-1.9万人と3カ月連続で減少した。就業者数(季節調整値:APIR推計)が同+2.8万人と2カ月連続で増加しており、雇用情勢は堅調といえよう。

全国2月の完全失業率(季節調整値)は2.3%と、前月比-0.2%ポイント低下し2カ月ぶりの改善。2018年5月(2.3%)以来、9カ月ぶりの低水準であった。完全失業者数(季節調整値)は160万人で前月比-12万人と2カ月ぶりの減少。理由別では、「非自発的な離職」は同-2万人減少、「自発的な離職(自己都合)」が同-8万人減少、「新たに求職」は同-6万人減少した。

完全失業率の推移(2010年1月~2019年2月)



(出所)総務省「労働力調査」

【公共投資・建設工事】

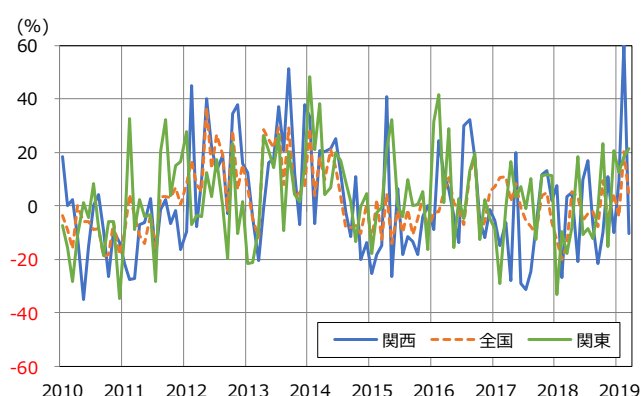
(1) 公共工事請負金額

関西3月の公共工事請負金額は1,093億円で前年同月比-10.5%と3カ月ぶりの減少。季節調整値(APIR推計)で見ても、

前月比-20.2%減少し、3カ月ぶりの減少。工事場所別にみると、増加したのは京都府(前年同月比+21.4%)、兵庫県(同+4.0%)、和歌山県(同+3.3%)であった。一方、減少したのは滋賀県(同-33.6%)、奈良県(同-13.3%)、大阪府(同-1.3%)であった。

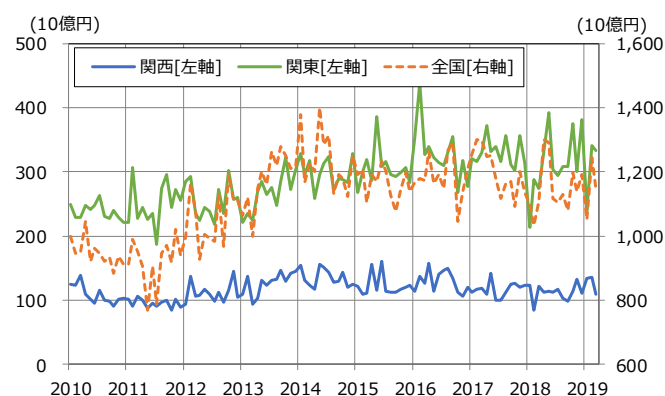
結果、1-3月期の公共工事請負金額は2,607億円で、5四半期ぶりに前年同期比増加した。また、季節調整値(APIR推計)で見ると、前期比+6.1%と2四半期連続で増加した。

公共工事請負金額(伸び率)の推移(2010年1月~2019年3月)



(出所)東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

公共工事請負金額(季調値)の推移(2010年1月~2019年3月)



(出所)東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

関東は3,687億円で前年同月比+21.5%と4カ月連続の増加。全国は13,165億円で同+3.7%と2カ月連続のプラスとなった。季節調整値(APIR推計)で見ると、関東は前月比-2.3%、全国は同-7.8%と、いずれも2カ月ぶりの減少。

結果、1-3月期の関東の公共工事請負金額は前年同期比+18.5%と2四半期連続で増加したが、季節調整値(APIR推

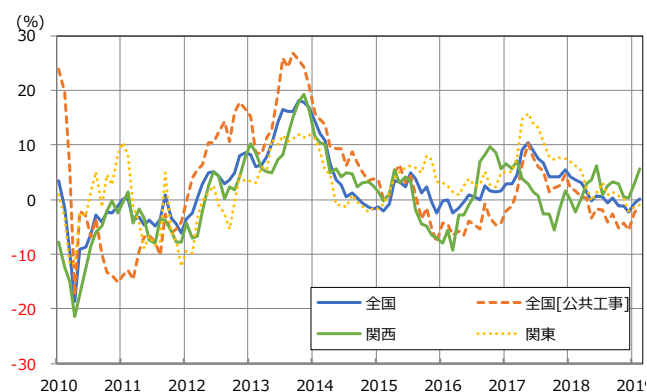
計)では前期比-13.5%と2四半期ぶりに減少した。全国も同様で、2四半期連続で前年比増加(+5.9%)したが、2四半期ぶりに前期比減少(-2.4%)した。

(2) 建設工事

関西2月の建設工事出来高は6,027億円となり、前年同月比+5.7%と12カ月連続の増加となった。一方、関東は1兆7,237億円で同-0.9%と3カ月連続の減少。建設業の人手不足が原因で関東の建設工事は頭打ちが見られるようである。

全国2月の建設工事出来高は4兆8,118億円と、前年同月比+0.1%と5カ月ぶりに小幅増加した。うち、民間工事は2兆7,987億円で同+1.1%と47カ月連続で増加、公共工事は2兆130億円で同-1.4%と10カ月連続の減少となった。

建設工事出来高の推移(2010年1月~2019年2月)



(注) 2016年4月分より新基準に基づく出来高の参考値を反映。(出所)国土交通省「建設総合統計」

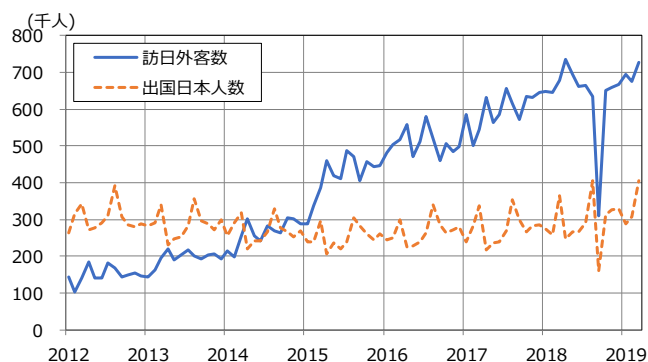
【関空モニター】

(1) 訪日外客数トレンド

3月の関空への外国人入国者数は72万6,520人となり、伸びは前年同月比+7.0%と6カ月連続のプラス。伸びは前月(同+4.6%)から加速したものの2018年10月以降、依然一桁台の伸びに留まっている。また、外国人出国者数は67万4,760人と同+7.4%で5カ月連続の増加。結果、外国人出入国者数は140万1,280人で同+7.2%と6カ月連続の増加。

また、日本人出国者数は40万4,430人で、前年同月比+10.8%と6カ月連続で増加した。

訪日外客数と出国日本人数の推移(2012年1月~2019年3月)



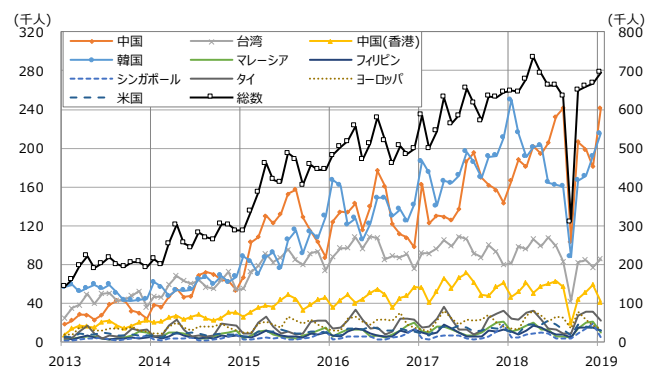
(出所) 一般財団法人関西空港調査会「KANSAI 空港レビュー」

(2) 地域別訪日外客数

1月の関空訪日外客数を国籍別・地域別にみると、中国(香港除く)からの入国者が24万1,530人(前年同月比+45.3%)と最多であった。次いで、韓国が21万5,285人(同-13.8%)、台湾が8万5,457人(同+5.1%)、香港が4万1,011人(同-11.3%)であった。2018年6月の大阪北部地震発生以来、8カ月ぶりに台湾は前年比増加したものの、韓国・香港からの入国者数は8カ月連続で減少している。

他のアジア各国は、タイが2万1,227人(前年同月比-8.7%)、フィリピンが1万1,358人(同+8.9%)、マレーシアが9,770人(同-4.1%)、シンガポールが4,006人(同+7.7%)であった。アジア以外の他地域を見ると、欧州全体では1万3,191人(同+1.9%)、米国が1万1,113人(同+20.8%)であった。

地域別訪日外客数(右軸：総数、左軸：各国、2019年1月まで)



(出所) 法務省「出入国管理統計」

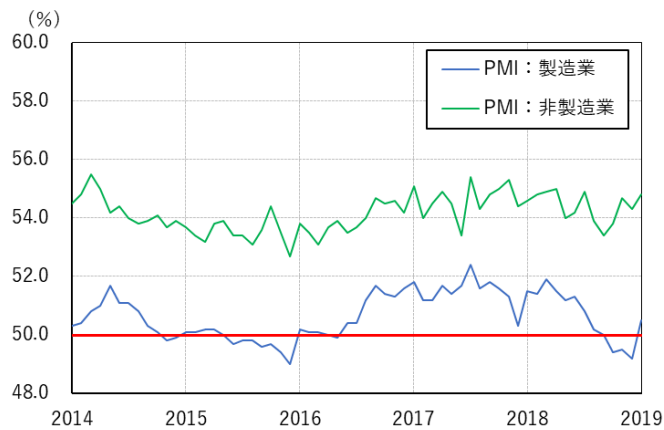
【中国景気モニター】

(1) センチメント

3月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は50.5となり、前月比+1.3%ポイント大幅上昇し、2カ月ぶりの改善。また、4カ月ぶりに景気分岐点(50)を上回った。非製造業 PMI は54.8となり、同+0.5%ポイント上昇し、2カ月ぶりの改善。

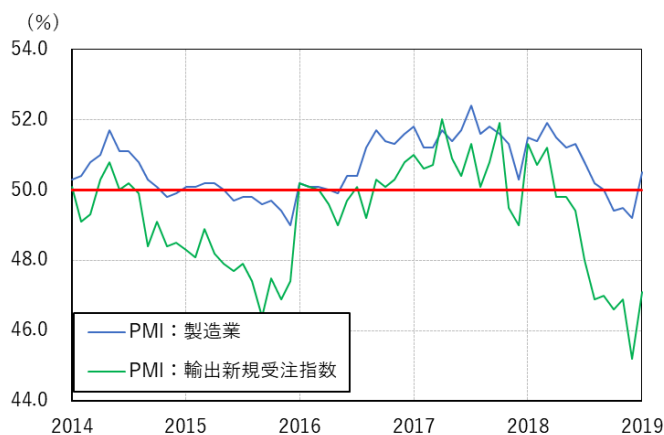
製造業 PMI のうち、生産指数は52.7と前月から+3.2%ポイント大幅上昇し、2カ月ぶりの改善。輸出新規受注指数は47.1と同+1.9%ポイント上昇し、2カ月ぶりの改善。米国の制裁関税(3月公表、7月から実施)の影響を受け、6月以降10カ月連続で50を下回った。雇用指数は47.6と同+0.1%ポイント上昇したが、24カ月連続で50を下回った。

製造業・非製造業購買担当者景況指数(2014年3月～2019年3月)



(出所) 中国国家統計局; CEIC データベース

製造業購買担当者景況指数(2014年3月～2019年3月)



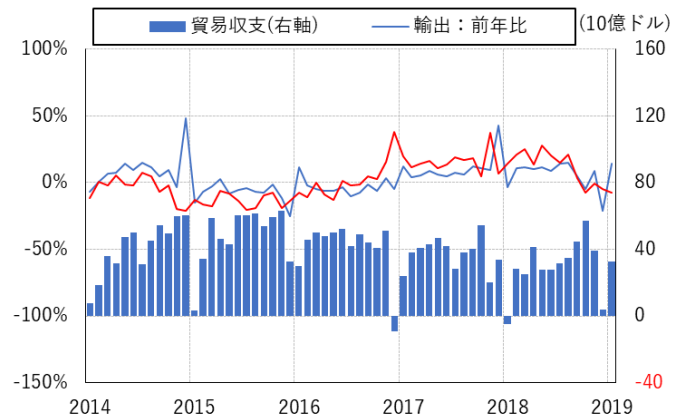
(出所) 中国国家統計局; CEIC データベース

(2) 貿易動向

3月の貿易収支は326.5億ドルで12カ月連続の黒字となった。輸出額(速報値, ドル・ベース)は1,986.7億ドル、前年同月比+14.1%と2カ月ぶりの増加。輸入額は1,660.3億ドル、同-7.3%と4カ月連続で減少した。

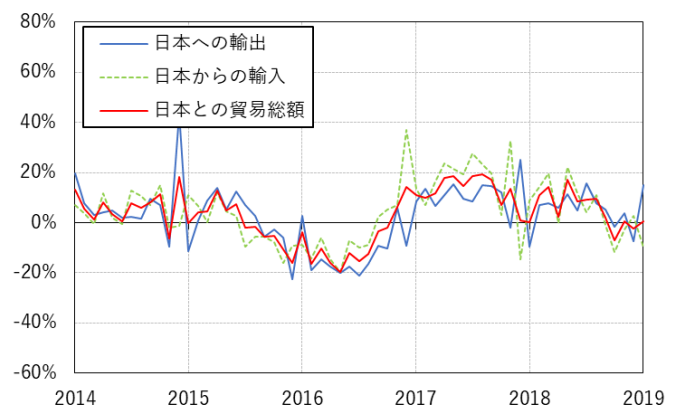
また、対日貿易収支は-13.3億ドルとなり、26カ月連続の赤字となった。対日輸出額は127.6億ドルとなり、前年同月比+9.6%と2カ月ぶりの増加。対日輸入額は140.8億ドルとなり、同-14.1%で2カ月ぶりの減少。なお、円ベースで見ると、対日輸出額は同+15.0%と2カ月ぶりの増加。一方、対日輸入額は同-9.8%と2カ月ぶりの減少である。

中国の貿易動向(ドル・ベース, 2014年3月～2019年3月)



(出所) 中国税関; CEIC データベース; APIR 計算

日本との貿易(円ベース, 2014年3月～2019年3月)



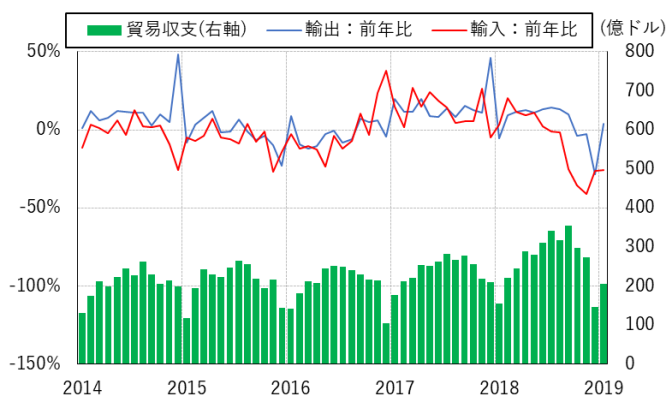
(出所) 中国税関; CEIC データベース; APIR 計算

[対米貿易]

3月の中国の対米貿易黒字は205.0億ドル(前月:147.2億ドル)となり、前年同月比+32.9%拡大した。2カ月ぶりのプラス。同月の対米輸出額は318.2億ドルと同+3.7%で、4カ月ぶりの増加。一方、対米輸入額は113.2億ドルとなり、同-25.8%と7カ月連続の減少であった。

3月2日、米国は中国製品2,000億ドル分への追加関税の正式延期を公表した。その後3月28-29日、米中貿易協議は最終段階に入ると思われたが、全体的な貿易合意は得られなかった。今回は両国政府とも大きな進展があったと報じたが、具体的な協議内容は公表されていない。

対米輸出入の動向(2014年3月~2019年3月)



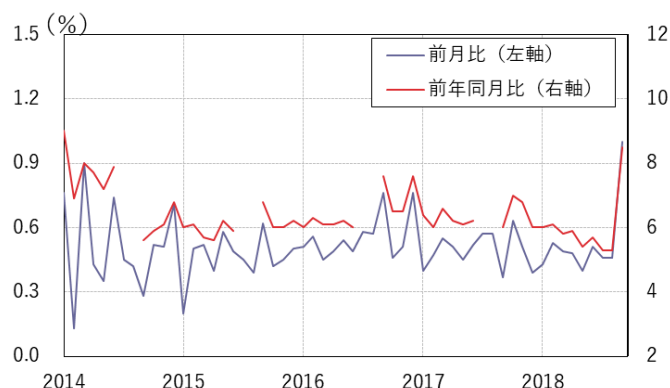
(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(3) 工業生産

3月の工業生産は前月比+1%上昇し、伸びは前月から+0.54%ポイント加速した。また、前年同月比+8.5%上昇し、前月から+3.2%ポイント加速した。

産業別に見ると、専用設備製造業(前年同月比+16.4%)、非金属鉱物製品製造業(同+15.4%)、電気機械・機材製造業(同+15.2%)などが高い伸びを示す一方、農業副食品加工業(同+5.7%)、食品製造業(同+4.8%)、自動車製造業(同+2.6%)などは比較的低調な伸びにとどまった。なお、自動車製造業は昨年10月以来の減産が増産に転じた。底打ちの兆候が現れている。

工業生産指数(2014年3月~2019年3月)



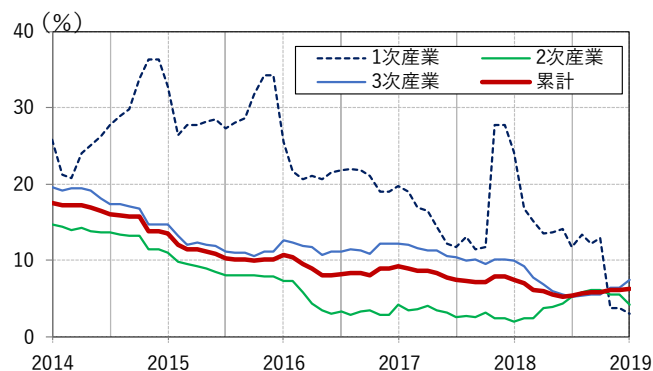
(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(4) 固定資産投資

2019年1-3月期の累積固定資産投資(名目)は前年同期比+6.3%となり、1-2月期から+0.2%ポイント上昇している。

産業別に見れば、第1次産業は前年比+3.0%増加し、伸びは前月から-0.7%ポイント下落した。第2次産業は同+4.2%と前月から-1.3%ポイント下落した。第3次産業は同+7.5%で、伸びは前月から+1.0%ポイント上昇した。

固定資産投資(産業別)累積伸び率(2014年3月~2019年3月)

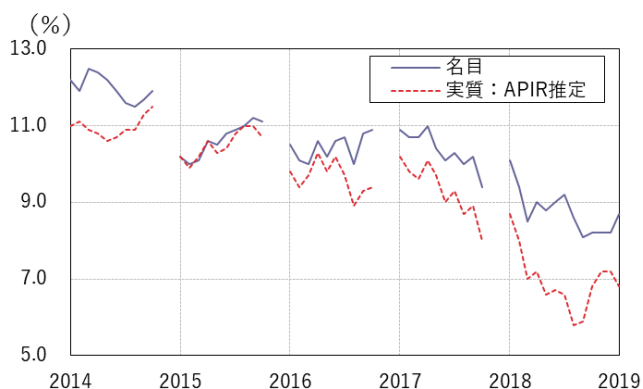


(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(5) 消費

3月の社会消費品小売総額(名目)は前年同月比+8.7%となり、伸びは前月から+0.5%ポイント上昇した。また、社会消費品小売総額の実質値(APIR 推計)をみると、伸びは同+6.8%と前月から-0.4%ポイント低下した。

社会消費品小売総額(2014年3月~2019年3月)



(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(6) 物価水準

3月の消費者物価指数(CPI)は前年同月比+2.3%で、前月から+0.8%ポイント上昇し、6カ月ぶりの加速。うち、食品価格は同+4.1%上昇し、CPIへの寄与度は+0.82%ポイントであった。多くの地域が低温と降雨の影響により、野菜価格が+16.2%大幅上昇し、豚肉価格も25カ月ぶりに同+5.1%上昇した。米中貿易摩擦により、中国は2018年4月から米国の豚肉に制裁関税を課したが、アフリカ豚コレラの影響を受け、中国国内の豚肉供給の不足のため、米国产豚肉を2019年の2月に多く輸入した。しかし、米国から輸入した豚肉が中国の国内需要を充足できず、3月豚肉の市場流通平均価格は14.5元と2018年1月以来の高水準であった。

消費者物価指数・生産者物価指数(2013年3月~2019年3月)



(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

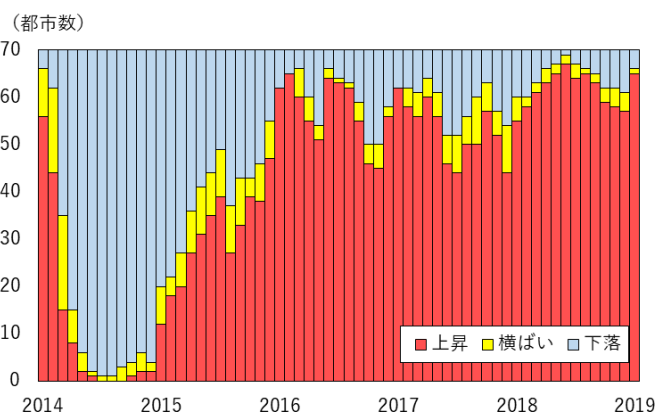
また、国際商品価格の上昇により、生産者物価指数(PPI)は前年同月比+0.4%となり、前月から+0.3%ポイント上昇し、

9カ月ぶりに加速した。うち、生産財(生産資料)価格は同+0.3%上昇し、前月から+0.4%ポイント加速した。消費財(生活資料)価格は同+0.5%上昇し、前月から+0.1%ポイント加速した。

(7) 不動産市場

3月の不動産市場はやや回復している。不動産価格(新築住宅価格)をみると、中国主要70都市のうち、住宅価格が上昇した都市数は65で前月から8都市増加した(5カ月ぶり)。一方、下落した都市数は4で前月から5都市減少し(7カ月ぶり)。また、横ばいの都市数は1で前月から3都市減少した。

新築住宅価格の主要都市集計(2014年3月~2019年3月)



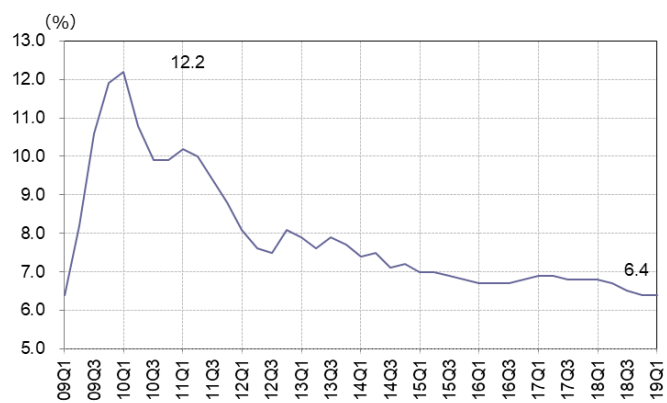
(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(8) GDP

1-3月期の実質GDP成長率は前年同期比+6.4%で、18年10-12月期と横ばいであった。だが、前期比は1.4%で、18年10-12月期より0.1%減速した。全人代において、本年度政府目標が6.5%-7.0%から6.0%-6.5%に引き下げられた。

産業別に見ると、同期の第1次産業の成長率は前年同期比+2.7%と伸びは前期から-0.8%ポイント低下し、2四半期連続の下落。第2次産業は同+6.1%で前期から+0.3%ポイント上昇し、2四半期連続の上昇。第3次産業は同+7.0%となり、前期から-0.4%ポイント低下し、2四半期連続の下落であった。

実質GDP成長率の推移(2009年Q1~2019年Q1)



(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

Contact : 木下祐輔・野村亮輔

Tel. 06-6485-7694

E-mail. contact@apir.or.jp

【主要月次統計】

月次統計	18/3M	18/4M	18/5M	18/6M	18/7M	18/8M	18/9M	18/10M	18/11M	18/12M	19/1M	19/2M	19/3M
景況感													
[関西]景気ウォッチャー調査(現状DI、季節調整値)	50.1	50.1	47.5	48.6	46.7	49.6	48.8	52.5	52.8	49.9	45.4	48.0	47.0
[関西]景気ウォッチャー調査(先行き、季節調整値)	52.3	52.1	50.8	52.4	50.8	51.2	52.9	52.8	53.4	46.3	50.7	50.4	50.6
[全国]景気ウォッチャー調査(現状DI、季節調整値)	48.9	49.0	47.1	48.1	46.6	48.7	48.6	49.5	51.0	48.0	45.6	47.5	44.8
[全国]景気ウォッチャー調査(先行き、季節調整値)	49.6	50.1	49.2	50.0	49.0	51.4	51.3	50.6	52.2	48.5	49.4	48.9	48.6
消費者心理・小売													
[関西]消費者態度指数(原数値)	42.9	42.9	43.2	43.3	42.9	43.2	42.7	42.6	42.4	42.5	41.8	40.6	40.1
[関西]暮らし向き(原数値)	40.6	40.7	41.5	41.5	40.9	41.2	39.6	40.5	40.3	40.6	40.2	38.1	37.2
[関西]収入の増え方(原数値)	41.1	41.6	42.1	41.7	41.8	41.8	41.8	40.8	40.9	40.6	40.8	39.8	39.2
[関西]雇用環境(原数値)	48.5	47.4	47.1	47.4	47.0	47.9	47.1	46.6	46.4	46.0	44.1	44.1	44.0
[関西]耐久消費財の買い判断(原数値)	41.3	41.7	42.1	42.4	41.9	41.7	42.2	42.3	42.0	42.6	41.9	40.5	39.8
[全国]消費者態度指数(季節調整値)	44.3	43.6	43.8	43.7	43.5	43.3	43.4	43.0	42.9	42.7	41.9	41.5	40.5
[関西]大型小売店販売額(10億円)	316.9	305.1	302.8	306.5	331.0	304.9	287.8	310.5	321.4	407.1	321.5	282.5	UN
[関西]大型小売店販売額(前年同月比%、全店)	1.0	0.2	-2.0	0.5	-2.4	-0.2	-2.0	0.1	-2.4	-0.8	-3.4	-1.3	UN
[全国]大型小売店販売額(10億円)	1,635.1	1,556.4	1,566.4	1,603.0	1,700.2	1,575.0	1,513.6	1,586.2	1,642.3	2,082.5	1,632.2	1,434.5	UN
[全国]大型小売店販売額(前年同月比%、全店)	0.2	-0.1	-1.4	2.1	-1.0	0.6	1.1	-0.2	-1.7	-0.5	-3.0	-1.5	UN
住宅・建設													
[関西]新設住宅着工(戸数)	10,788	13,392	14,140	11,737	12,151	11,768	12,545	11,496	12,329	11,360	11,371	11,310	UN
[関西]新設住宅着工(前年同月比%)	-8.5	13.4	27.2	-2.2	-3.6	-0.2	10.5	-5.5	4.8	11.1	23.7	-0.7	UN
[全国]新設住宅着工(戸数)	69,616	84,226	79,539	81,275	82,615	81,860	81,903	83,330	84,213	78,364	67,087	71,966	UN
[全国]新設住宅着工(前年同月比%)	-8.3	0.3	1.3	-7.1	-0.7	1.6	-1.5	0.3	-0.6	2.1	1.1	4.2	UN
[関西]マンション契約率(季節調整値)	69.3	71.2	68.8	73.1	73.5	76.8	75.7	78.2	73.6	75.1	70.5	75.2	83.0
[関西]マンション契約率(原数値)	67.3	71.0	69.5	75.6	74.0	80.6	72.8	77.7	74.4	72.1	70.2	75.8	80.6
[首都圏]マンション契約率(季節調整値)	71.5	64.2	62.3	64.3	63.1	64.2	64.9	73.1	55.5	50.2	70.8	64.7	69.2
[首都圏]マンション契約率(原数値)	74.7	63.0	62.2	66.0	67.8	64.5	66.5	67.5	53.9	49.4	67.5	65.6	72.2
[関西]公共工事前払保証額(10億円)	122.2	211.7	116.4	134.5	140.9	95.4	109.3	116.9	94.7	88.0	71.4	80.0	109.3
[関西]公共工事前払保証額(前年同月比%)	3.4	4.9	-21.0	9.9	17.1	-7.1	-21.6	-10.0	10.9	-9.8	9.1	60.5	-10.5
[全国]公共工事前払保証額(10億円)	1,269.7	2,177.7	1,285.7	1,433.9	1,252.0	1,124.1	1,218.6	1,282.3	818.9	834.0	585.3	739.0	1,316.5
[全国]公共工事前払保証額(前年同月比%)	-14.5	5.5	3.5	-5.6	-2.9	-2.2	-7.6	9.5	-5.2	4.6	-4.1	20.4	3.7
[関西]建設工事(総合、10億円)	558.6	484.7	482.3	513.4	504.7	529.4	554.3	564.2	589.8	610.4	607.9	602.7	UN
[関西]建設工事(総合、前年同月比%)	0.2	2.9	3.7	6.2	0.9	2.5	3.3	3.0	0.5	0.2	3.0	5.7	UN
[全国]建設工事(総合、10億円)	4,751.6	3,960.9	3,893.5	4,124.0	4,264.0	4,447.2	4,705.1	4,850.7	4,915.6	4,945.3	4,897.0	4,811.8	UN
[全国]建設工事(総合、前年同月比%)	3.1	1.5	-0.2	0.7	0.5	-0.5	0.3	-1.1	-1.1	-2.2	-0.7	0.1	UN
[全国]建設工事(公共工事、10億円)	2,047.6	1,455.3	1,380.9	1,479.7	1,540.2	1,642.2	1,826.6	1,938.5	1,996.5	2,042.5	2,047.5	2,013.0	UN
[全国]建設工事(公共工事、前年同月比%)	0.5	0.3	-3.3	-1.7	-1.8	-4.1	-2.6	-5.2	-4.2	-5.6	-2.3	-1.4	UN
生産													
[関西]鉱工業生産(季節調整値、10年=100)	108.3	113.9	106.7	107.7	105.6	108.4	104.3	105.9	104.7	103.0	100.8	102.3	UN
[関西]鉱工業生産(季節調整値、前月比)	2.3	5.2	-6.3	0.9	-1.9	2.7	-3.7	3.3	-1.7	-1.3	-1.9	1.7	UN
[関西]出荷指数(原数値、前年同月比%)	1.2	5.1	3.5	-1.7	1.0	-0.4	-4.1	7.0	1.2	-2.8	-0.5	-4.0	UN
[関西]在庫指数(原数値、前年同月比%)	8.2	3.5	1.0	0.7	-1.7	-3.0	0.0	-3.9	-2.8	-1.8	-2.9	-1.8	UN
[関西]出荷指数(季節調整値、10年=100)	104.7	111.1	105.6	105.9	102.9	106.2	99.3	108.1	104.6	102.8	101.3	101.1	UN
[関西]出荷指数(季節調整値、前月比)	0.6	6.1	-5.0	0.3	-2.8	3.2	-7.0	6.7	-3.7	-1.4	-1.4	-0.1	UN
[関西]在庫指数(季節調整値、10年=100)	127.0	127.2	125.5	122.9	120.8	120.2	124.3	97.7	98.2	100.6	98.6	99.6	UN
[関西]在庫指数(季節調整値、前月比)	4.2	0.2	-1.3	-2.1	-1.7	-0.5	3.1	-2.4	0.6	2.3	-2.1	1.2	UN
[全国]鉱工業生産(季節調整値、10年=100)	104.1	104.6	104.4	102.5	102.3	102.5	102.9	105.9	104.8	104.7	101.1	102.5	UN
[全国]鉱工業生産(季節調整値、前月比)	1.4	0.5	-0.2	-1.8	-0.2	0.2	-0.4	2.9	-1.0	-0.1	-3.4	1.4	UN
[全国]出荷指数(原数値、前年同月比%)	1.4	3.6	3.3	-0.2	1.2	0.5	-2.9	5.7	0.9	-3.1	-0.4	-0.3	UN
[全国]在庫指数(原数値、前年同月比%)	3.9	1.7	2.5	2.4	2.8	3.0	3.5	-0.7	0.6	1.9	1.3	1.4	UN
[全国]出荷指数(季節調整値、10年=100)	101.5	103.1	101.5	101.8	99.8	101.5	101.1	104.6	103.3	103.3	99.8	101.6	UN
[全国]出荷指数(季節調整値、前月比)	1.2	1.6	-1.6	0.3	-2.0	1.7	-2.0	3.5	-1.2	0.0	-3.4	1.8	UN
[全国]在庫指数(季節調整値、10年=100)	113.5	112.8	113.5	111.4	111.2	110.8	102.6	101.3	101.4	103.1	101.7	102.2	UN
[全国]在庫指数(季節調整値、前月比)	3.3	-0.6	0.6	-1.9	-0.2	-0.4	1.2	-1.3	0.1	1.7	-1.4	0.5	UN
労働													
[関西]現金給与総額(2府4県、前年同月比%)	1.6	1.2	1.4	1.1	1.2	0.5	-1.1	0.4	2.0	-1.7	UN	UN	UN
[関西]現金給与総額(2府1県、前年同月比%)	1.8	1.8	2.1	1.1	2.5	0.8	-0.6	0.9	2.6	-1.3	1.3	UN	UN
[全国]現金給与総額(前年同月比%)	1.8	0.2	1.4	2.8	1.4	0.6	0.7	1.1	1.7	1.5	-0.6	-0.7	UN
[関西]完全失業率(季節調整値)	2.7	2.7	2.6	3.0	2.9	2.8	2.9	3.0	3.4	3.0	2.8	2.6	UN
[関西]完全失業率(原数値)	2.7	2.6	2.5	3.0	3.0	3.0	3.1	3.0	3.1	2.6	2.7	2.7	UN
[全国]完全失業率(季節調整値)	2.5	2.5	2.2	2.4	2.5	2.4	2.3	2.4	2.5	2.4	2.5	2.3	UN
[関西]新規求人倍率(季節調整値)	2.44	2.39	2.37	2.53	2.54	2.46	2.61	2.53	2.45	2.45	2.60	2.61	UN
[全国]新規求人倍率(季節調整値)	2.41	2.37	2.34	2.47	2.42	2.34	2.50	2.40	2.40	2.41	2.48	2.50	UN
[関西]有効求人倍率(季節調整値)	1.57	1.56	1.56	1.58	1.60	1.62	1.64	1.63	1.62	1.61	1.61	1.62	UN
[全国]有効求人倍率(季節調整値)	1.59	1.59	1.60	1.62	1.63	1.63	1.64	1.62	1.63	1.63	1.63	1.63	UN
国際貿易													
[関西]純輸出(10億円)	368.4	236.3	82.3	268.1	85.6	179.2	179.8	115.9	19.9	179.8	-184.0	213.7	273.5
[関西]輸出(10億円)	1,607.2	1,443.2	1,402.8	1,520.9	1,434.1	1,519.3	1,119.4	1,517.8	1,505.0	1,474.9	1,179.8	1,319.8	1,500.1
[関西]輸出(前年同月比%)	8.9	8.1	13.2	9.9	7.9	9.9	-24.5	6.5	-1.0	-7.2	-9.5	-2.0	-6.3
[関西]輸入(10億円)	1,238.8	1,207.0	1,320.5	1,252.8	1,348.6	1,340.1	931.7	1,401.9	1,485.1	1,295.1	1,363.8	1,106.1	1,226.6
[関西]輸入(前年同月比%)	-1.2	4.0	15.3	3.4	12.9	9.8	-24.4	10.8	9.4	-2.9	0.4	-9.8	-1.4

注：鉱工業生産 輸送機械工業は銅船・鉄道車両除く。

Release Calendar for March/April

Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
25-Mar	26-Mar 近畿地域 鉱工業生産動向 (1月:確報値) 出入国管理統計 (1月)	27-Mar	28-Mar 財務省貿易統計 (1月:確報値) 財務省貿易統計 (2月:確・速)	29-Mar 全国鉱工業生産指数 (2月:速報値) 一般職業紹介状況 (2月) 労働力調査(2月) 建築着工統計 調査報告(2月) 商業動態統計 (2月:速報値) 中国製造業 PMI (3月)**
1-Apr	2-Apr	3-Apr	4-Apr	5-Apr 毎月勤労統計調査 (1月:確報値) 毎月勤労統計調査 (2月:速報値) 百貨店・スーパー販売状 況(2月:速報値)
8-Apr 景気ウォッチャー調査 (3月) 消費動向調査 (3月)	9-Apr 近畿地域 鉱工業生産動向 (2月:速報値) 近畿貿易統計 (1月:確報) 近畿貿易統計 (2月:確速)	10-Apr	11-Apr 中国 CPI (3月)	12-Apr 中国輸出入 (3月:速報値)
15-Apr 公共工事前払金 保証統計(3月) 商業動態統計 (2月:確報値)	16-Apr 中国不動産市場 (3月)	17-Apr 全国鉱工業生産指数 (2月:確報値) 近畿圏マンション 市場動向(3月) 全国貿易統計 (3月:速報) 近畿貿易統計 (3月:速報) 建設総合統計(2月) 中国工業生産(3月) 中国消費小売総額 (3月) 中国固定資産投資 (3月) 中国 1-3 月期 GDP	18-Apr	19-Apr 出入(帰)国者数 (3月)**
22-Apr	23-Apr 毎月勤労統計調査 (2月:確報値) 近畿地域 鉱工業生産動向 (2月:確報値)	24-Apr	25-Apr 出入国管理統計 (2月)*	26-Apr 商業動態統計 (3月:速報値) 全国鉱工業生産指数 (3月:速報値) 建築着工統計 調査報告(3月) 一般職業紹介状況 (3月) 労働力調査(3月) 全国貿易統計 (3月:確速)

*印は発表予定日が未定。 **公表日は翌日。